

浅野誠 2013年2月

動植物シリーズ3

我が家の

畑庭作業と野菜

2007~2010



2009年11月14日撮影

ウリズンマメ

=リュウキュウシカクマメ

はじめに

2007年2月に、ブログ「田舎暮らし・人生創造・浅野誠」をスタートさせたが、我が家の畑庭の記事がかなりの量になって収容しきれないので、3年ほど経過すると削除している。削除した記事から選んで編集してみた。

100坪ほどの斜面で、素人農法・素人庭づくりをしてきた。その試行錯誤の記録でもある。2007年~2010年4月までの記事がもとになっている。

※ 各記事冒頭の年月日は、ブログ掲載日。

第1, 2, 3章での記載は、掲載日順を基本としている。

目次

1. 庭

4

我が家二階前の庭

芝とタマリユウ

芝刈り

庭の写真に虹めいたものが写る

中庭作業

中庭作業ひとまず完了

我が家西側通路横の植物

森の家（ムイヌヤー）生活満5年

ウッドデッキから、庭・森を見る

午後4時の我が家

ウッドデッキも満開

庭の光景…ひなたぼっこ

アロエ、蘇鉄、エクメアをまとめ植え

愛知県の旧我が家

赤池の家の庭

2. 畑

12

このところの農作業

夕方の雨 農作業できず、欲求不満

畑作業

樹木の管理

サンニンの活用

畑から鉄のカケラ

突然、かかし、びっくり

毎日の畑仕事

雨・涼しさで畑が元気に

南から見た我が家の畑

我が畑が、だんだん果樹園っぽくなってきた

野菜畑が少しずつ果樹園に近づいていく

森になりつつある我が畑

3. 農法・コンポスト・農作業学習

19

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| ニセ「ジャスミン」 苗のこわい名付け | 粘土団子の実験 |
| 粘土団子13日目 | 新井由己『自然農に生きる人たち』を読む |
| 福岡正信「無Ⅲ 自然農法」を読む | 福岡本2 輪作 粘土団子 不耕起 無肥料 もやし豆 |
| 福岡本3 果樹と野菜 | 福岡本4 私なりの自然農法へゆっくりと歩んでいきたい |
| アルファルファについて少しわかる 種専門店にて | 水口文夫『家庭菜園の不耕起栽培』を読む |
| 川口由一編著『自然農への道』（創森社2005年）を読む | |
| 多種多様な野菜が出てくる粘土団子 | 掘った穴に草木をいれる |
| 粘土団子を置く | 五十日後の粘土団子 |
| 七十日後の粘土団子 | 堆肥場所のローテーション 日当たり・肥料 |
| 岩にも育てる タイム・長命草など | 堆肥あとに生姜を植えつける 植えつけの循環 |
| 種まきの季節 | 種を粘土団子に入れる |
| 粘土団子から色んな芽が出てくる | コンポスト |
| コンポスト容器をとり熟させて堆肥にしていく | 市補助金を活用して、コンポスト二個追加 |

4. 野菜（50音順）

35

- | | |
|--------------------|----------------|
| アシタバ | アスパラガス |
| ウリズンマメ=リュウキュウシカクマメ | エンサイ=ウンチュー=空心菜 |
| オキダイナ | ゴーヤ |
| ごぼう | さつまいも |
| さやえんどう | 山東白菜 |
| シマナ=カラシナ | しょうが |
| だいこん | 島ニンジン（チデークニー） |
| ツルムラサキ | トマト |
| なす | ニガナ=ンジャナ |
| ニラ | にんにく |
| はんだま | モロヘイヤ |
| 三つ葉 | みょうが |
| しまらっきょう | わさびな |
| 野菜収穫三題 | |

1. 庭

2008年12月21日

我が家二階前の庭

この庭もようやく「様」になってきた。

左上から説明しよう。

三階玄関への橋

橋にからんでいる植物はパッションフルーツ

橋の下 左側から ポインセチア、サボテン、

そして 上からレンギョウ、クロトン、ポトス

下の岩をセメントで固めたものは、隣の敷地からきて、
我が家下の道路沿いの小川まで続く、大雨時に流れる水路の溝



2009年4月3日

芝とタマリユウ

我が家の庭は、芝生が中心であり、周りに花や低い樹木を植えている。その境界にはタマリユウを植えた。

写真左側がタマリユウで右側が芝だ。

タマリユウはリュウノヒゲの背丈を低くした改良種。

愛知の家で育てていたものを、玉城にもってきた。最初は「点」状態だが、2~3年で「線」になり、今は「面」へと発展しつつある。買えば、結構な値段だが、こうして育てると、元気がいいのでどんどん広がる。

こういうグランドカバーとしては、他にオリヅルランや

こうようにして伸びる観葉植物を活用している。

芝生は日当たりがいいと、しっかりと伸びる。北側の庭は冬場は日当たりが悪いので、よたよたしている。

最初の2~3年は草取りなどの管理が面倒だが、いまでは、夏場に2~3回芝刈りするぐらいで、手間はかからない。

2009年4月3日

芝刈り

奥に芝刈り機。一年に2、3回する。

刈ったものはそのまま残す循環型。無農薬。

肥料は二年に一回ぐらい堆肥をまく。

刈り取りの高さは、2~3センチ。

通常より高いはず。この高さだと生長点をのこすのでいいと、本にあったので、そうしてる。

雑草を抜く作業は、最初の1~2年はかなりの作業だったが、いまでは、その必要もないくらいである。



2009年7月24日

庭の写真に虹めいたものが写る

光線の関係だろうがキレイだ

ハイビスカスなどが写っている

2009年9月20日

中庭作業

ほんの少しだが、庭作業がしやすい空気になってきた

芝がうまく育ってない中庭に、鉢植えのものを移植する作業



2009年9月20日

中庭作業ひとまず完了

2009年9月23日

我が家西側通路横の植物

作業用通路

私が植えたものばかりだが、2メートル近くになってきた。

ハイビスカス、千年木、クロトン、マニラやし、レンギョウなど



2009年9月23日

森の家（ムイヌヤー）生活満5年

知らぬ間に5年がたった。5年前、家の完成と同時に、ここに移った。

宅地造成はしないで、傾斜地のまま、植物はそのままにしてくれ、と頼んであったので、工事の都合で切らざるをえないものも、事前に移植してもらった。今思うと、工事の方々には大変な苦勞をかけたと思う。今は大きくなったマンゴー、ライチなども移植してもらったものだ。

だから、私が新規に植えたものより、以前からの木の方が多い。大木で唯一の例外はブーゲンビリアで、娘夫婦が花野果村で苗を買ってきたものを植えた記念樹だ。そのころ、10センチ足らずだった、自然生えのガジュマルも今や4メートルになった。

木々が大きくなったので、畑面積が半分ぐらいになった。恵美子は「果樹園だね」という。あと数年すれば、実際そうなるだろう。そして、100メートル位離れたところから我が家を見ると、1.2階が木々に隠れ、2階建てに見えるようである。だから、隣の大きな森のお陰だけでなく、我が家の木々のお陰で、我が家はすっかり森の家になった。

畑の通路はすべて自分で作った。ハブが住みやすい石積みの穴もすべて塞いだ。もともと動物たちが豊富に住むところだったが、家に入りこんだ雀や床下に住みかかった野良猫親子のように、これまで以上に多くなったかもしれない。ただ、蛇類だけは減ったように思う。この一年は出会っていない。

屋上のドラゴンフルーツもどんどん大きくなっている。壁面のシッサスなども広がっている。入口のオオバナアリアケカズラア、パッションフルーツも大きくなっている。ヤシ類だけは、成長が遅いので、まだまだ子ども

段階で、来客には気づかれにくい。

これまでは、「大きくなーれ」と願う成長時代だったが、これからはゆったりと熟していく時期に移っていくように思う。あと5年すると、もっともっと熟してくるだろう。円熟というほどになるには、あと何年くらいかな。一緒にわたしも円熟していこうと思う。



2009年9月30日

ウッドデッキから、庭・森を見る

左側は大きくなったシッサス。

雲が美しい。

9月も終わるが、まだまだ夏。もっともっと雨が欲しい。

2009年9月30日

午後4時の我が家

満開のブーゲンビリアが四階に近づきつつある

右がマンゴーの木

左がライチの木





2009年12月28日

ウッドデッキも満開

雨でうっとうしささえ感じる今日
でも雨で落ちたブーゲンビリアの花が、気分
を変えてくれる。

2010年1月14日

庭の光景…ひなたぼっこ

飛び交うメジロ

小さいので写真には写りにくい

寒さのなか、日差しを浴びると、なんだか嬉しい





2010年2月2日

アロエ、蘇鉄、エクメアをまとめ植え

ウッドデッキ脇に並べてみる

アロエは大きくなりすぎてカットしたもの

写真左の茶色の数個の蘇鉄は、大きくなってたくさん赤ちゃんをつけているものから取って植える

エクメアは、これまでアナナスと思っていたものだが、日当たりが悪すぎる所から移植

作業はもう少し必要

シーサーと合うだろうか

2007年5月5日

愛知県の旧我が家

愛知の旧我が家＝現娘夫婦住居に久しぶりに行く。新緑の季節ということもあるが、ますます緑豊かになっている。この写真は、居間から住宅入り口方面の庭を写したものである。

現在の玉城の家もそうだが、自然の緑が好きな私たちということを再確認した。



2009年9月10日

赤池の家の庭

愛知の家は、名古屋市郊外の日進市赤池だ。

私が植えた木々が鬱蒼としてきた

娘たちが工夫している



2. 畑

2008年6月12日

このところの農作業

5月半ば以降の畑はガジャンが日常的に活躍しているので、皮膚をまったく出さない格好で作業する。長靴、ズボン、長袖上着、手袋、首の後ろ回りも覆う帽子、といったスタイルである。だから少々暑い。そこで、できるだけ短時間で要領よくすませるということになりがちだ。

6月に入っての作業一覧。

収穫 ニンニク、ラッキョウ、ゴーヤ、オクラ、キュウリなどいろいろ

植えつけ 赤モーイ、チシャなどの葉野菜、ウツチン、しかくまめなど

変ったところでは、苗屋で見つけた「お茶」の木を植えてみた。

「八頭」も試しに植えた

季節の変わり目で、収穫のものも植えつけるものも大きく様変わりする。

今日の作業中に、マンゴーの木の根元でヘビのなきがらを見つける。どうやら昨晚、なんらかの原因でたおれたようだ。おそらくアカマタだ。マンガースにでもやられたのか、病気なのか。

2008年6月26日

夕方の雨 農作業できず、欲求不満

昨日今日と夕方雨がふる。雨が降れば、植物はうれしい。とくにこの一週間雨がほとんどなかったので、とくにそうだ。

でも、作業をしようとしていた私は、水まきをしなくてもいいうれしさの反面、農作業できずに、欲求不満状態。私のストレス解消に最高の農作業なのだ。

この5月の水道代は、記録的に少なかった。下水道料金がさがったのも一因だが、水まきの必要がほとんどなかったことにもよる。そんな点では、雨がないと困る。毎年、梅雨明け時期は、どうしても水まきをしなくてはならない。

ここ数日の農作業を並べてみよう。

ラッキョウの収穫完了。立派なものは、次の植えつけ用。

植えつけたのは、ニンニク、サニーレタス、アシタバ、長ねぎ、ニラ、サツマイモなど
他に、シカクマメの棚づくり。

レイシ=ライチの剪定 マンゴーの袋かけ ブーゲンビリアの剪定 などなど

今恵美子と私の関心をひきつけているのは、ミョウガがいつ収穫できるかどうかである。床下に植えたもの。
今日しようと考えていたのは、サツマイモの収穫。剪定した木々の枝の片づけ。そして、最大の仕事は草取り。
できれば、ラッキョウの植えつけ準備もしたかった。

雨よ、やめ。降るのは、農作業時間以外にお願いします。

2008年10月4日

畑作業

今日は久々に長い時間畑作業をした。草取りなどいろいろと仕事がたまっていた。長くできたのは、涼しい風が吹いていることと、蚊が減ったからだ。

気温が高いにしても、今日の風は秋風を感じる。2~3日前までは、蚊がすごい勢いだった。長ズボンの上から、10分間ぐらいで、膝頭に10箇所もかまれてしまった。今日は長ズボンの上からさす蚊はいなかった。ということで、いい気分の畑作業だった。

これから畑作業にはいい季節だ。いろいろな野菜を植えていくことになる。

そして、18日の半島芸術祭で、ハーブティーを出す役割を与えられたので、その準備も必要だ。当日はわずかばかりだが、ハーブを販売する計画もある。

ハーブを見ていると、季節が移っているのがよくわかる。ミント類が「暑さが終了したから、これから元気になれる」と語っている。

2009年3月29日

樹木の管理

我が家の畑は、平らな畑ではない。傾斜が強い畑で、しかも樹木が結構ある。畑にしているところにある樹木をならべてみよう。

チシャノキ

ソテツ

クロキ12本

ティートリー

マンゴー

レイシ(ライチ)3本

ガジュマル

以上はソテツを除いて、3~7メートルの高さである。その他、まだ小さいものとして、ヤマモモ、バンシルー、イチジク、メイフラワー、コーヒー、柿などがある。だから、木々の間を畑にしているといったほうがいい。そして徐々に畑面積は減っていきそうだ。

その木々の手入れである。一つは剪定。だいたい年に一回。木々を高くして、森っぽくしたいので、上の方は切らない方針だ。下の方を中心に切る。風通しをよくするためにも多少は切る。切った枝葉は、根元に置くことを基本にするが、余りは堆肥に使う。

木のまわりの地面にはタマリユウを植えてある。これは5年前まで住んでいた愛知の家で殖やしたのもってきた。タマリユウは旺盛に伸びる。買うと高いが、定着すると便利だ。多少日陰でも水不足でも絶えることはほとんどない。タマリユウが広がった個所の外側を畑にする。畑と木の根回りの境界にしているのだ。

樹木、とくに果樹への肥料は、基本は、切った枝葉、落ちた枝葉を置いて循環させる。だから、タマリユウも根より少し離して植えてある。時々恵美子が海藻をとってきて、それを根元に置くことがある。マンゴーだけは、購入してきた堆肥を年に1~2袋根元に置いている。

2009年4月1日

サンニンの活用

我が畑には、住む前から元気に活躍している植物も多い。蘇鉄がそうだ。

とくに元気がいいのは、サンニン(月桃)だ。あちこちに生えている。少しでも根が残っていると、そこからでてる。この逞しさが、薬用になる理由だろう。

活用方法は、

- 1) 種をとって、薬草茶に入れる。
- 2) 葉を細かく刻んで、これまた薬草茶に入れる。
- 3) 育ちすぎた茎葉を、堆肥に入れ込む。
- 4) マルチに使用する。バナナ、トマト、ナスなどの根元に置いて、他の草が生えないようにするのだ。

この間、「気ままにロハス」のテレビをみていたら、これを畑の通路に置いて、虫除けとしても活用している例があった。その効果も期待したい。

このほかに、自然にでてくるものとして、ススキがある。これは堆肥づくりに生かす。購入する堆肥の材料としてススキを使っていると書いてあったので、私もそうしはじめたのだ。

2009年5月9日

畑から鉄のカケラ

粘土団子を作っていたら、硬くて重いものが出てきた

大きさは5×3cmで、厚さは1cmもない。

多分砲弾の破片だろう

艦砲射撃の激しかったこの地域

それともこわれた農具の一部か



2009年5月27日

突然、かかし、びっくり

ライチが実りはじめた。鳥が突っつく。我が家の畑だけでなく隣の畑にも。業を煮やしたのか、隣人がかかしを立てたようだ。何本も。一番立派な写真のかかしは我が畑に。

知らなかったから最初は超びっくり。迫力満点だ。

2009年5月27日

毎日の畑仕事

梅雨明け後、粘土団子を置くのは、数日に一回である。

おおよそ、毎日1～2時間、畑作業をする。

スキのように大きな草を取って堆肥にしていく。畑のあちこちからの収穫もある。そのほか、細々とした作業も結構ある。パッションフルーツの人工授粉も毎日しなくてはならない。

今日は乾燥気味なので、水撒きをした。相変わらず、蚊がむらがっているので、全面的に蚊よけの服装であることはいうまでもない。

このところの収穫は、こんなもの。

オクラ、モロヘイヤ、ハンダマ、時々ゴーヤ、大根・人参・牛蒡（小さいが）、ピーマン、など。

このところ、ハーブはあまり収穫していないので、伸び放題の感じだ。クミスクチンなどの薬草の収穫作業もほったらかしにしているので、再開しなくてはならない。

このところ没頭したのは、マンゴーの収穫。

季節変わりなので、次の7月後半から9月にかけての作業の準備も必要だ。粘土団子についての、中間総括もしなくてはならない。

2009年10月14日

雨・涼しさに畑が元気に

手前が苦菜。中ほどがハーブたち（らせん式）。

奥に野菜たち。

木々が大きくなってきたので畑面積が減っていく。

写真は上段畑を東側から写す





2009年10月14日

南から見た我が家の畑

左側はレモングラス

右下はニラ

棚はウリズン豆

奥にパパイヤとアロエ

地面には、粘土団子

この一週間、畑仕事をいつもの倍した。

2010年1月4日

我が畑が、だんだん果樹園っぽくなってきた

今日、カニステルを植えて振り返ってみると、野菜を育てる面積がどんどん減少している。クルチ（リュウキユウコクタン）など、果樹でないものも含めて、樹木が成長してきて、野菜畑にまで広がっているのだ。

果樹を並べてみよう。

元気よく果物を提供してくれるもの

金煌マンゴー、ライチ（レイシ）3本、パパイヤ数本、パッションフルーツ

実をつけ始めたもの

びわ、シーカーサー、アテモヤ

実をつけていたが、このごろうまくいってないもの

バナナ

植えて間もないので、2~3年後までの結実に期待しているもの

ざくろ、ホワイトサポテ、カニステル、バンシルー（グァバ）、ジャボチカバ

2010年2月10日

野菜畑が少しずつ果樹園に近づいていく

わが畑には、あちこちに樹木がある。最初からあるものにはクロキが多い。ほかにも、マンゴー、レイシ、ガジュマルなどがある。私が植えたものには、さがりばな、ティートリー、バンシルー、アテモヤなどがある。パパイヤもある。木ではないが、パッションフルーツもある。

これらは、年々大きくなり、野菜畑を「浸食」していく。ハーブが占める面積もかなりだ。ここに住み始めたころと比べると、野菜畑面積が60%ぐらいになっている。全体の比率でいうと、樹木40%、ハーブ20%、野菜40%の比率だが、あと数年すれば、この比率は、60-20-20になるだろう。

果樹は、もう少し増やしたい。現在、パパイヤ、マンゴー、レイシ、シーカーサー、パッションフルーツが収穫できるが、ここ3年ぐらいにさらに3種類は増やしたい。候補は大きくなりつつある、びわ、バンシルー、アテモヤなどだ。ほかに数種類の苗が育っている。

夢は、常時なにかが収穫できる状態だが、それはちょっと難しいだろう。そのころには、野菜畑はほんのちょっぴり状態だろう。

2010年4月20日

森になりつつある我が畑

6年目になり、木々がぐんぐん伸びてきた。
3~8メートルの樹高。

写真上から、チシャノキ、クルチ、白い花満開のティートゥリー、レイシ、マンゴーなど。

その間に畑が少しだけ見える。

三階ベランダから写したので、4階まで伸びてきたブーゲンビリアの赤い花も写る。



3. 農法・コンポスト・農作業学習

2007年4月7日

ニセ「ジャスミン」 苗のこわい名付け

植物の専門家と話していて、苗業者が名付ける際に、「なんちゃって」型があるとのこと。よくわからない苗を「〜〜なんちゃって」と名付けるのだ。

その例として、「ジャスミン なんちゃって」として出回っているものがある。それをサンピン茶のジャスミンとまちがえて飲んで、死んだ人がいるとのこと。

そのニセ「ジャスミン」の特徴を聞くと、実は我が畑にもあって、私も本物「ジャスミン」とまちがえていたことが判明。苗店では「ジャスミン」という表示で売っていた。本物はつる性ではないのに、ニセ「ジャスミン」はツル性なのだ。

危ういところだった。このごろは、苗店の名札を信じるのに多少慎重になりつつあるが、ますます慎重にならなくてはならない。

2008年10月29日

粘土団子の実験

自然農法の一つに粘土団子というのがある。

2、3年前から、不耕起栽培、自然農法とかいうものに興味をもっていたが、やったことはなかった。

以前長崎にいったときに、退職近い高校教師がそれを始めていて、資料を送っていただいたこともある。

また、近隣の生物研究者もそれをしているという話を聞いた。さらに、最近読んだ新城明久「農業・産業活性化へのヒント」（新星出版2007年）にも掲載されていた。

そこで、インターネットで調べてみた。そのなかで、



粘土団子をするのが、手っとり早いと思い、やってみた。

その説明には、「粘土団子というのは、耕さず、肥料をやらす、除草もせずに作物を育てるためのいっさいが集約されたもの」とある。また「作り方は（中略）手当たりしだいにいろいろな種を百種類以上集めて混ぜ合わせ、それを粘土といっしょに混ぜて団子状にすればいいんです。」とある。

今手元にある種は百種類もなく、10種類足らずだが、それでとりあえず団子をつくって、畑のあちこちに置いたのが、10月25日である。

4日目の今日の写真。いくつか芽を出している。このあとを楽しみにしている。

そういえば、10年近く以前、友人宅訪問の際、丹那トンネルの上あたりの農場に連れて行ってもらったことがある。そこが自然農法だったのかどうかは、当時は関心がなかったもので、記憶がはっきりしないが、粘土団子めいたものを売っており、一つ購入して、愛知の我が家に植えてみた。いくつかの種類の花がその後開花したことを覚えている。

2008年11月7日

粘土団子13日目

まず大きく飛び出してきたのは、サヤエンドウだ。

他に2、3種類でてきた。もう少し大きくなるとなんだかはっきりするだろう。

今日も粘土団子5個置いた。通算29個。

今後も観察報告は続くだろう。



2008年12月8日

新井由己『自然農に生きる人たち』を読む

自然農に興味をもちはじめたので、本を探す。インターネットでも何冊も出てくる。

東京の書店に行って探す。こういう関係の本は、これまで「園芸」コーナーで探していた。何冊かはあるのだが、本命の何冊かがない。

気づいた。「園芸」ではなく、「産業」のなかの「農業」のコーナーだ。ということで五冊ほど見つけて購入

した。帰りの飛行機のなかで、そのなかの一冊の写真集を見るといふか、読む。

自然農法の雰囲気をつかむのに、なかなかいい。

新井由己『写真集 自然農に生きる人たちー耕さなくていいんだよ』（自然食通信社2008年）である。

この本を通して、「自然農」について気づいたことを羅列してみよう。

- 1) よく聞く有機無農薬とは異なる。それよりもっと「自然」に近いのだ。
- 2) 「自然」に近いということの一つは、「不耕起」にある。私が今実験している「粘土団子」を提唱している福岡式のように、それに加えて、「不除草」「無肥料」でいくのもある。

この本が紹介している40近い事例に深い影響を及ぼし、この本の「序にかえて」を書いている川口由一さんの農法について、著者は次のように述べている。

「川口さんは、『無除草ではできない。型にはめた方法では難しい』と考えるようになり、あくまで栽培するという姿勢で取り組んできた。バラまきに向くもの、土をかぶせなければいけないもの、苗を育ててうえなければいけないものなど、作物の性質に応じてそれぞれに従わないとうまくいかない。さらに田んぼや土の様子は年々変化していく。それにも対応しなければならない。」

他にもいろいろと自然農法があるようだ。

肥料を自然の循環の原理に近い形で与えるやり方もある。

草を抜くことはしないが草刈をするのもある。刈った草が自然循環で肥料になるし、マルチの役割を果たしたりもするのだ。

私も、私の畑、そして私自身にあうやり方を探していこう。

こんなことも書かれている。

「有機農業にしても、自然農にしても、畑の土はふかふかでなければいけないと僕は思っていた。ところが、豪雪地の硬い畑でも、土が流れてしまう段々畑でも、ちゃんと野菜は育つのだ。自然のサイクルに沿うということとは、なかなか奥が深いのである。」

この本には沖縄の例は出てこない。きっとどこかでだれかがやっているはずだ。

この本に限らず、日本語の農業の本は、本州基準が多く、沖縄なりの読み替え、工夫が必要だ。

- 3) 自分たちの生活に必要な野菜などをまかないつつ、それを越えたものを、固定客に配達して販売するというケースが結構ある。なかには専業農家として成り立たせている人もある。無論、もっぱら自家消費だけの生産の人もいる。

全体としてもみれば、高収入というわけではないが、「自然に近い」暮らしをしているので、生活に困っているというわけではなさそうだ。

- 4) 「自然農」そのものを楽しんでいる人が多い。長期計画をもって取り組んでいる例は少なく、まずは今の農

業を楽しんでいるといった感じだ。

5) 過去にアトピー・アレルギーに悩んで、健康を考えるようになり、この道を見出した人が多い。なかには、専業農家で農薬散布による病気がきっかけの人もいる。自然農法がよかったのかどうかははっきりしないが、なかにはガンを卒業してきた人もいるようだ。

6) 先に紹介した福岡さんや川口さんのような方が、「塾」めいたものを開いて、そこで体験してきて、この道に本格的に入ってきた人がかなりいる。そこでは理論というよりも、体験・感性に比重がかかっている。

そして、習ったものをそのままやるというより、自分なりの工夫を積み重ねている人が圧倒的だ。

7) 脱サラなどではじめた人が多い。無論、専業農家、あるいは農業後継者のケースもあるが、転業転職してきた人が多い。

8) 次のような川口さんの言葉が紹介されている。

「余計なことをしないことがたいせつです。環境問題にしても、問題を解決するのではなくて、問題を招かない生き方をすることです」

なかなか興味津々で含蓄が深い言葉である。「問題解決」的思考に深くひたっている私には、刺激的な言葉だ。考えてみよう。

2009年1月1日

福岡正信「無Ⅲ 自然農法」を読む

このところ、農業の本を読むことが多くなった。いろいろな農業の考え方を知りたいこともあるが、農業の仕方、とくに我が家のような家庭菜園に役立つ方法を知りたいこともある。10月に紹介した新城明久「農業・産業活性化へのヒント」で名前を知った福岡正信の本を手に入れたので、読む。

自然農法の先駆者として知られている人のようだ。この本の初版は1985年で春秋社からでていいる。かなり売れているようだ。本の半分以上は、考え方、とくに科学農法に対する自然農法についての考え方について書かれている。実践的なことは、米麦・果樹が中心で、私が直接に知りたかった野菜は少なかった。

科学農法を厳しく批判し、無耕耘（不耕起）・無肥料・無除草・無農薬を軸にする自然農法を主張している。かといって、科学的な叙述でない、ということではない。著者自身が、農業研究にたずさわってきたし、批判する「科学農法」の世界をくぐり抜けてきた人だからであろう。

私なりの受け取り方でいうと、科学農法に反対する自然農法というよりも、自然の循環・生態系に沿った農法の主張だ。この本が書かれた当時は、エコロジーという用語は定着していない時代だったが、まさにエコロジカルな農法の主張だ。

戦後著しく広がり定着した機械農法が、「科学万能主義」、そしてものごと細断して把握することを軸とする科学に依存してきたが、そのことに対する批判として自然農法の「科学」を、考え方を含めて展開しているともいえそうだ。

そして「科学農法」に過剰依存してきた農業が、徐々に「自然農法」へと移行していく展望を示しているともいえそうだ。

野菜に関する叙述は少ないが、私の家庭菜園の現実の作業にも多くの示唆を含んでいる。それらに学びつつ、私自身の今後の家庭菜園の方針について学んだこと考えたことを、次回からいくつか書いていくことにしよう。

2009年1月2日

福岡本2 輪作 粘土団子 不耕起 無肥料 もやし豆

福岡本の野菜づくりは、輪作体系をとり、その「特徴は、不耕起、無肥料、無農薬、無除草を最終目標としている」が、「粘土団子で百種（多種）を混播すれば、無為天成で自然が自ら完全な調和をもった輪作体系をとる」と述べる。

私も今その実験をしている。百種というのは、今の私には無理だが、10種類ぐらい混ぜている。2ヶ月やっているのですが、全部では20種類くらいになるだろう。

四つの特徴のうち、不耕起については、根菜による深耕を提起している。我が家の畑は、だいたいにおいて、クチャの硬い粘土層の上に、有機質がまざった10~20センチのジャーガル層がのっかっている。以前は畑だったが、急傾斜地なので、表土の流出対策が重要だというのは、この本からのヒントでもある。

これまで、地質が硬いので、根菜は無理だと思っていたが、逆に根菜を植えて、根菜に深耕をしてもらおう、というつもりになって、実験を開始したところだ。

それにしても、野菜や雑草の根で耕すという発想は、なるほどと思う。

無肥料については、私がこれまで使用してきたのは、近隣で売っている鶏糞とか牛糞などが混ざった堆肥だし、家庭用ごみ・畑からでてくる草類・土の三つを交互にコンポストに入れてつくる、私流の堆肥だ。化学肥料は使っていない。

この本では、無肥料にするために、「豆科緑肥を連年基調作物として作り、その中になるべくコーティングした作物の種子を混播するか、苗移植を行ない、さらに深根作物を配して不耕起のまま土地の肥沃化を図る」とある。

そこで、これまで通り私流の堆肥づくりを継続することに加えて、豆科緑肥の活用を試みようという気になった。この本ですすめられているもののなかで、私にとってなじみがあるのは、クローバーとルーサン＝アルフ

アルファ=もやし豆だ。クローバーの類は、否が応でも畑のあちこちにある。近隣の農家ではいやがられている雑草だ。私もこの扱いに苦勞してきた。だが、むしろOKなんだということであれば、放置しておけばいい。もやし豆は、20年ぐらい前に、もやしをつくったこともある。そして、ハーブの本にはアルファアルファとして掲載され、れっきとしたハーブなので、もやしとしてだけでなく、成長させても活用できる。

ということで、もやし豆を、年末から探しているが、スーパーなどでは売っていない。もやしを自分でつくることが流行した30年ぐらい前には、もやしをつくる道具といっしょに売っていたのだが。いまではもやしを自分でつくろうという人がいなくなったのか。

この記事を読んだ方で、もやし豆を売っているところを知っている人がおられたら、どうぞ教えて下さい。あるスーパーで「青豆」が売られていたが、これがもやし豆なのかもしれないが、よくわからない。

2009年1月4日

福岡本3 果樹と野菜

福岡本で、これまで述べた以外に、私の畑にかかわって参考にしたい点などをならべてみよう。

1) まず前回述べた「もやし」のことだ。インターネットなどで調べると、「もやし」に使われているのは、緑豆、青豆、大豆などで、アルファアルファもその一つのようなのだ。しかし、アルファアルファは今のところ手に入れるめどが立たない。そこで、青豆を買ってきて、今日粘土団子にして置いてみた。その青豆の袋には、原材料は緑豆と書いてある。どうなっているのだろうか。

2) 「多くの野菜が、無作為な自然輪作といえる野草化栽培をすることによって、ほとんど無肥料でゆけることは、すでに実証済みである」とある。

そして、果樹の間というか、果樹の下に野菜を植えることを推奨している。我が家の畑は、前所有者があちこちに果樹（マンゴー、レイシ）とクルチ（りゅうきゅうこくたん）を植えてきたので、私が野菜づくりをすると、自ずと、果樹の下というか、間につくることになるからちょうど具合がいいようだ。

3) 我が家の畑には、前所有者が植えたものに加えて、私が、パパイヤ、ザクロ、ビワ、柿、山桃、バンシルー、イチジクなどを加えた。これらは、この本のなかでは、病虫害に強いのか、中くらいに分類してあったので、ほっとした。

4) 果樹は自然形がよく、無剪定の方向が追求されている。我が家のマンゴーは、専門農家がビニールハウスのなかに育てているのとは違って、伸ばし放題にしてある。無論、下枝や混み合っただけを切る程度のことにはしているが。それは20~30メートルにもなるというマンゴーを我が家の主木にしようかなという「魂胆」があるからだ。でも、収穫のとき、困るなあと思っていた。

しかし、木というものは、らせん状に枝をつけるので、それを登っていけると書いてある。少々ほっとした。

5) 我が家の果樹の問題は、鳥やこうもり対策である。ただパパイヤは1~2年でダメになる。近隣のどなたかが、樹木のそばだと長くもつといわれた。そういえば、今我が家で一番大きいパパイヤは、クルチのすぐ側に種こぼれでできたものだ。

2009年1月5日

福岡本4 私なりの自然農法へゆっくりと歩んでいきたい

1)「自家用野菜の作り方を一口に言うと、堆厩肥などの有機物を施してつくった肥沃な土壌に、適期、適作を行うということにつきる。」

私がやってきたことと同じなので、ほっとした。果樹栽培の節でのことだが、「突然無肥料栽培を試みたり、除草をやめるだけでは効果はない。」とあり、緑肥栽培などいろいろしながら、その方向に進むのだと書かれている。

私も少しずつその方向に向かっていこうと思う。

2)「ナスやトマトは、一本仕立てなどにせず、放任して倒れたら倒れたままで叢生栽培をすればよい。起こして支柱をたてたりせずにおけば、地面をはった茎の各所から根を下ろし、多数の茎を箒状にたてて生長し結実するものである」とある。

私はこれまで支柱をたててきてし、今もそうしている。この「倒れたまま」にしておく方法を実験してみようかと思う。

3) 著者は、砂漠の緑化にあたって、アカシアなどの緑肥木、クローバーやアルファルファなどの緑肥、穀物や野菜、これらの種の土団子を砂漠やサバンナのなかにまく方法を実際に展開して実績をあげてきたようだ。

他にも「自然農法」にかかわる本を何冊か購入したので、読みながら、私なりの「自然農法」を何年もかけて追求していきたいと思う。

2009年1月6日

アルファルファについて、少しわかる 種専門店にて

今日、種専門店に行った。店に人にアルファルファについて尋ねた。

ついに、これについて知っている人に出会った。

注文で取り寄せになるとのこと。0.5kgがひとまとめで、価格は変動し、2000円余りとのこと。これだと100坪に蒔けるとのこと。一年に一回ぐらいしか売れていないとのこと。取り寄せれば、2、3日で届くと

いう。

はたと困った。迷った。これだと狭い我が家庭菜園では5年間分くらいになる。それほど種がもつわけではないし。しばし考えることにしよう。

この店では、緑豆が置いてあった。みると、先日スーパーで買った青豆と同じだ。有効期限ぎりぎりだった。

要するに、いまでは緑肥をする人がとても少ない、ということがあらわれているようだ。

以上のことは、まだまだ私には知らないことばかりで、まちがいが多いかもしれない。ご存じの方のアドバイスをお願いしたい。

2009年1月8日

水口文夫『家庭菜園の不耕起栽培』を読む

この本は、農山漁村文化協会から1999年に初版出版されたが、初版が14刷を重ねたうえ、改訂版がだされ、その第三刷を私は手にした。こういう本がこんなに売れているとは驚きだ。サブタイトルは『根穴』と微生物を生かす』である。

この本では、なによりも、不耕起の有効さが納得できる。耕起する方が不自然だし、家庭菜園規模ならかえって非効率なのかもしれない。

私の場合、ふりかえてみると、自然農法に関心をもつ前から、実際のところ余り耕起していない。面倒だということが最大原因だ。それが結果的によかったわけだと、自己満足している。

画一的生産方法で、規格が統一されたものを大量出荷しなくてはならない農家にとっては、この方法をとるのは難しいかもしれない。しかし、長い目で見ると、この農法のほうが効果があるし、なにせ自然とともに歩むという意味でのサステイナブルでいくことができる。

この本は、福岡本のように、「哲学」が語られているわけではなく、きわめて実地的なワザが豊富に書かれている。その意味で大変実用的だ。

こうした本は、通常、本土、たいていの場合、中部日本あたりを基準にして書かれている。この本も愛知県が基準になっている。だから、そのままでは沖縄では使えない。気候、土壌などの違いを勘案しなくてはならない。

そんな意味でも、こういう本を参考にしながら、私流の畑作りをすすめていきたい。

それにしても、学ぶこと、ヒントになることが多い本だ。

私にとっては、とくに有機マルチ、緑肥について、多くのヒントを得た。また、私がしていることでのまちがいも教えてくれた。たとえば、ニラは半日陰を好むということがそうだった。我が家のニラは、愛知の家からもってきた。愛知の家ではどんどん繁殖していたが、ここに植えてからどうも元気がない。その原因がやっとわか

った次第だ。そこで、今日、早速、ニラの移植をはじめた。

2009年1月16日

川口由一編著『自然農への道』（創森社2005年）を読む

自然農にかかわる本を読みつづけている。この本は、川口さんとかかわりを深いもつ、全国の8つの当事者が書いた物語・実践である。自給自足的なレベルから專業農家レベルまで多様だ。スタートから現在にいたるまでの苦労談が多い。私のような家庭菜園レベルのものとか、あるいは沖縄のような気候のところとかはないので、ヒントはえられるにしても、そのままでは難しい点も多い。

それにしても、專業農家レベルを追求しようとする苦労談が多い。それは自然農の難しさではなく、流通・消費の側の問題だと私は思う。消費者の大半が、スーパー店頭に並ぶような「見栄え」のいいもの、規格品的なものを求めることから越えきれていない。そして流通もそれに合わせられている。そのため、自然農でない農家の人でも、出荷できるものの比率はそれほど高くなく、かなり廃棄しなくてはならない、という状況にある。曲がったキウリなどがその典型だ。キウリは曲がるのがあたりまえなののである。だから、自然農の方々の流通は、消費者との直接のやりとりがほとんどだ。

このあたりは、社会レベルの課題である。有機無農薬では、そうした流通システムはかなり確立し、有機無農薬がブランドにまでなっている。そうしたことが、自然農でも実現するようになれば、と願う。

2009年2月3日

多種多様な野菜が出てくる粘土団子

10種類以上の種を粘土団子に入れて、昨年11月に置いたものから、多種多様な野菜が大きくなり、いよいよ収穫の時期を迎えつつある。

写真に写っているものを列挙しよう。

カキチシャ 島人参 レタス・オークリーフ
葉ダイコン チンゲンサイ シマナ
などなど

蒔いた私自身にも、どの種がどの野菜になっているのか区別がつかないものもある。



2009年3月16日

掘った穴に草木をいれる

私の素人畑作業について、連載していこうと思う。まったくの自己流なので、マネをしても保障はしません。

それにどんどん「改善」していくので、このやり方が続くとは限りません。よろしく。

まずは土づくり。

最初に穴を掘る。ずっと栽培しつづけて「疲れたな」と思う畑の土を掘るのだ。

そこに、草木を入れ込む。最近、バナナを移植したので、残ったバナナの「木」も入れた。剪定した樹木の枝でもいい。

ともかく植物性のものなら、なんでも入れる。



最初のころは、これらはコンポストにいれていたが、コンポストには入りきらないし、枝などはなかなか堆肥化しないので、まずは穴のなかにいれておいて、数年かかって堆肥化させようという魂胆である。

たまったら、そこにコンポスト容器をのせる。

2009年3月18日

粘土団子を置く

何冊か読んだ自然農法の本の一冊を参照にしながらも、私流に粘土団子をつくり、畑に置く。昨年10月に始めたが、一年間は続けてみようと思う。その状況次第で、次のことは考えるつもり。いまのところ「まあまあ」というか、なんともいえない。

最近置いたところは、らっきょうの収穫後。耕さず、そ



のまま置く。いわゆる不耕起だ。

最近の団子に入れた種は次のようなものだ。

しまな 青豆 チマサンチュ 大根 葉大根 オクラ わさび菜 おかひじき カリフラワー ナーベラー
きゅうり サラダ菜 ごぼう なす ゴーヤ

もの好きに、花の種もいれてみた。畑に花が咲くのも「おつ」なものだろうと思って。

ポピー おしろい花 スターチス

これらの種を150粒くらい混ぜて、粘土に混ぜ、13~14個の団子にする。だから、一つの団子には10粒くらいの種になると思う。だから、全部の種類がはいるわけではない。ゴーヤやナーベラーなどは、数個の団子の一つの割合だ。



2009年3月19日

五十日後の粘土団子

写真に写っているものは

ゴーヤ。サラダ菜。えんどう。葉だいこん。

小松菜 などだ。

2009年3月19日

七十日後の粘土団子

収穫時期のものがいっぱい

激しい勢力争いといった感じだ。

写真には、葉野菜が大きく見えるが、このなかには、二十日ダイコンとかごぼうも入っている。



2009年3月20日

堆肥場所のローテーション 日当たり・肥料

堆肥をつくる場所を特定しているわけではない。一度つくったところでは繰り返さない。ローテーションでまわしていくのである。できた堆肥を他のところで使うというのではなくて、つくったその場所に苗を植えたり、種をまいたりする。こんな具合にやって4年半たつが、ほぼ畑を一巡した感じである。だから二巡目に入ったというわけだ。

堆肥をしなくても、肥沃な場所もある。我が家の畑は、かなりの傾斜地なので、傾斜の一番下は、上から栄養分が流れてくるせいか、堆肥をしなくてもかなり収穫がある。逆に、上の方は堆肥をしても、まだ不十分だ。

そこで、ローテーションでやるにしても、多少の重点配分をする必要がある。

また、日照を要求する作物にとっては日当たりが重要である。畑と木々が同じ場所であるので、木々が大きくなるに従って、日陰をつくりはじめているので、日当たりを工夫する必要がでてきている。

でも日当たりを好むかどうか間違えことも多い。たとえばニラが日当たりが強すぎるのを嫌うことは最近知った。この2、3月の畑作業の一つは、ニラを半日陰に移植することだった。

農業案内書はほとんどが本土基準が書かれている。日当たりを好むと書いてあっても、沖縄の夏の日当たりでもよいかどうかは、経験してみないとわからない。たとえば日当たりを好むと書いてあるハーブたちは、我が畑では、半日陰で育ててちょうどいい。

化学肥料はまったく使用してこなかった。例外は、庭の芝生を植えた当初、芝生用のものを使用した。4年前のことだ。

市販の堆肥はかなり使ってきた。牛糞や鶏糞を含んだ、一袋300~400円くらいのものだ。しかし、その使用量は減ってきている。今年に入ってからは、まだ使っていない。

といっても、まだまだ「なし」というわけにはいかないと思う。とくに実ものには必要だろう。

2009年3月23日

岩にも育てる タイム・長命草など

普通の畑だけに作物は育つとは限らない。写真は、岩の上



に育つタイムだ。タイムは、元気を出させるハーブで重宝している。

タイムは乾燥がちのところが好きだということで、はじめのころ、普通の畑の乾燥気味のところで育てていたが、どうしても長続きしない。本を読んでいくと、岩場もOKという。

そこで、我が畑にある、高さ2メートル、広さも1メートル四方くらいある、大きな岩に育てることにした。成功。もう3年ぐらいになるが、どんどん育っている。

最初に植えたのは、岩の5センチ四方くらいのくぼみで、少しは土のあるところだ。

同じようにして育つのは、長命草。買ってきた苗を、岩のくぼみに植えた。少しずつ広がる。昨年、たくさんの種をつけたので、くぼみ10個所以上に、それらの種をどんどんほうりこんだ。その結果、いま、岩のあちこちに長命草が育ちはじめている。

この他に育てているものとしては、レモンタイム、ハママーチ（おきなわよもぎ）、セイロンベンケイなどがある。

ニガナもそうだが、最初、日当たりがよすぎるところに植えて失敗し、今は適度の日当たりのところに移しかえた。



2009年3月24日

堆肥あとに生姜を植えつける

植えつけの循環

コンポスト容器をとって、2~3ヶ月寝かすと堆肥らしくなる。そこにそのまま植えつけるやり方をとっている。

写真では、8カケラのショウガが白く写っている。

しょうがは、昨秋収穫したものの一部を保存しておいたものを使う。

今のところは、ショウガの他に、ウッチンを植える予定。7月以降はシマラッキョウを植える計画。6~8ヶ月たってそれらを収穫した後に粘土団子を置く計画だ。

こうやって作物を、私流に循環させようという計画である。

2009年10月6日

種まきの季節

14種 800粒

ようやく風に涼しさを感じるようになってきた。それに、少しは雨が降るようになってきた。台風の「お陰」で、今晚は雨が降りそうだ。

沖縄では7、8月は種まきが難しいが、9月に入ればOKであるというのが一般的だが、今年は暑いうえに雨が少ないので、私は9月下旬から種まきを本格化させた。



2009年10月6日

種を粘土団子に入れる

85個できた。

一個あたり9粒

雨を期待

2009年10月8日

粘土団子から色んな芽が出てくる

ちょっとだけ涼しくなり雨が降ったので、急に芽がいっぱい出てくる

数ヶ月前のもので忘れていたのもある



2009年3月17日

コンポスト

穴に草木をいれたものの上に、コンポスト容器を置く。

容器購入には、玉城村からの半額補助金を利用した。今、この制度があるかどうかはわからない。

コンポスト容器のまわりに土を置く。土を置いて少々踏み固めて置かないと、ネズミがコンポストに入ってしまう。コンポストには、草、台所の残りクズ、土を交互にいれる。

以前は、販売されている「有用微生物」をいれていたが、畑にかなりゆきわたったと思うので、今はしていない。

満杯になったら、一カ月くらい寝かしておく。そのあと、容器をとって、次のコンポストづくりにまわす。



2009年3月17日

コンポスト容器をとり熟させて堆肥にしていく

この後、1~2ヶ月、ときどきスコップでかき混ぜる。

2ヶ月くらいしてから、苗を植えたり、種をまいたりする

2010年2月23日

市補助金を活用して、コンポスト 二個追加

今月の南城市の広報に、「生ゴミ処理容器・処理機の奨励金について」という記事があった。

5年前に、旧玉城村の同じ制度で、2つのコンポストを購入し、活用し続けている。生ゴミだけでなく、畑庭の草や枝、枯葉なども入れて、堆肥化しているので、二つでは足りない。

この記事を読むと、3年以上前に、この制度を活用した人も対象と書いてあった。早速、市役所の生活環境課に出かけて申し込む。2月22日のことだ。

ほんのちょっと手間がかかった。多分、申し込む人が少なく、たまにしかない業務のためようだ。どこに買いに行けば、よいかと尋ねたら、近くのJAで買えるとのこと。

早速、買いに行く。JAでは「在庫がない。注文できるが、一週間はかかるし、生産中止になっている可能性もある。ホームセンターにあたってみては」とすすめられた。

そこでいったホームセンターでも在庫は少なく、同じ大きさではそろえられず、違った大きさになった。

ともかく購入し、市役所に領収書をもっていく。半額補助だが、上限が一個3000円なので、合計6000円、後日振り込まれることになった。

こういう予算は、すぐになくなるとおもいきや、そうでもないようだ。年度末の今でも、まだ広報しているくらいだ。店の在庫のなさ、少なさが、購入する人が少ないことを示している。そういえば、近隣で、これを使っているのを見かけることは少ない。有機堆肥をつくるのに、大助かりなのに、と思う。EMなどをやっている人は多いのに、なぜだろうか。よくわからない。

環境への関心が高まっているはずなのに、不思議に思う。



4. 野菜 (50音順)

アシタバ

2010年2月28日

※ 後日、リュウキュウアシタバ(インドヨモギナ)という名であることを知る。

2012年5月20日ブログ記事参照

何年か前にいただいたが、多年草なので、いつまでも元気。

おひたしや汁に使う。

暖かくなったので、生育が急激。



アスパラガス

2009年6月22日

2年前に苗を植えた。

苗は5本ぐらいなので、収穫量は少ないが、美味しい。

2010年2月28日

収穫しどきの大きさだが、本体の体力作りのために、伸ばして
いくつもり

次から収穫しよう

この写真撮影の午前11時前のとき、20センチくらいだったが、午後4時近くには、40センチほど。急激な成長だ。



ウリズンマメ

=リュウキュウシカクマメ

2007年11月8日

昨年、苗を購入し植えて、食卓を飾ったが、
今年のこの苗は、種こぼれから育ったものだ。

つるをいっぱい伸ばすので、整理が大変だ。
花もいっぱいだ。実はあと2~3日で収穫である。

どなたかに、ウリズンマメは育てていますかと尋ねられて、「いいえ」と応えたら、別の人が「シカクマメのことですよ」と教えてくださ

り、それならいっぱい育っていますよ、と応えた。

あと一週間もすると、我が家の消費量を大幅に越える収穫になりそうだ。

2008年10月27日

収穫シーズン。毎日食卓に

昨年から植えつけてきた。今年は、苗を一本購入したが、もう一本こぼれ種からも出てきた。

今年は暑い日がつづいたせいかどうかわからないが、昨年と比べて、我が家の収穫時期は少々遅い。



2008年12月20日

種を取る

最近、人気が出始めている。

食べごろをほっておくと、長さ20センチ近くなり、固くなる。

開いてみると、立派な種。

今年の本は、種こぼれからできたもの。私が作った堆肥から成長してきたので、購入したもう一本の苗とあわせて、数百個も2ヶ月にわたって収穫してきた。

できすぎて、我が家を訪問した農家の方にもさしあげた。いつも私たちがいただく側なので、「逆だね」といわれてしまった。

でも、あと数日でおしまい。

※ 後でわかったことだが、写真のように、青いまま取るより、もっと時間をかけて、茶色になってから、開いて取る方がよい。



2009年11月1日

この年の収穫は遅く、11月に入って収穫第一号だった。

左側が花

右側がつぼみ

つぼみのすぐ右下の実が第一号。

天候のためか、自然（放置）農法のためか、「過剰豊作」の昨年と大違い



エンサイ＝ウンチェー＝空心菜

2007年9月18日

我が畑の南端の湿り気の多いところに植えてある。放りっぱなしだが、夏になれば、結構な収穫量になる。

本土のスーパーでは、空心菜といって、2～3本300円くらいで売っているのを見てびっくりした。

しかし、沖縄からは害虫の都合で出荷できない。





2008年9月4日

我が家の本日の収穫物は、本土でなら1000円で売れるのかな。

しかし、害虫防除のため、今、沖縄から持ち出し禁止植物だ。この制限がなくなったら、沖縄産品がもう一つ売れると思うが。

植えっぱなしで、伸びたら収穫。いたって簡単

2009年12月6日

グッピー水槽に咲くエンサイの花

水の浄化のために、水槽にエンサイを入れて育てている





オキダイナ

2009年4月18日

新聞報道もされた話題の野菜の種
花野果村で販売

2010年2月22日

昨年から、新聞で時々報道されている。

沖縄大学関係者が、中国で種を手に入れてきた

こともあって、オキダイナという。

私は、花野果村で手に入れて、今収穫。

サラダ向き。

これから大きくなるころ



ゴーヤ

2008年7月29日

我が家のゴーヤが完熟して黄色になる。

もったいないのでジュースにする。

かなりいける。



2009年7月6日

突起がなだらかなゴーヤ

沖縄ではめったにみられないゴーヤだ。

10年前、トロントにいたとき、チャイナタウンで買うゴーヤが、こんな感じだった。

3月に、このゴーヤの種を手にいれて、粘土団子に入れたが、最近、着果した。

まだ10センチ足らずなので、収穫まであと数日。

ごぼう

2010年2月22日

粘土団子から不耕起栽培で育てたゴボウ

超物好きなやり方かもしれない。

硬い粘土質（クチャ）でやってみた。

根菜類は、畑を耕してくれるという考えもある。

今年は、大根・牛蒡・人参でやってみた。

手をほとんどかけない農法にしてはよくできたと思う。

ゴボウさん、ご苦労様でした。



さつまいも

2009年1月23日

苗店で買ってきた、パープルスイートロードという品種

さやえんどう

2009年1月21日

花が美しい



2009年1月24日

収穫第一号

10月終わりから11月はじめにかけて置いた粘土団子からでてきたもの。

あちこちから育っており、花もたくさん咲き始めたので、もうしばらくすると食べきれないほどの収穫になるだろうと、期待している。

山東白菜

2007年11月8日

9月にまいた種や植えた苗が、収穫の時期を迎えつつある。これは山東白菜。順調な生育で、間引きしたものをゆがいて食べたりしている。来週からは、これまた我が家の消費量を大幅に越えそうである。

ほかには、サラダ菜、レタス、チマサンチュ、サニーレタス、セロリ、パセリ、コマツナ、ルッコラ、イタリアンパセリ、

二十日ネギなどが生育中である。それに、7月ころから収穫しているツルムラサキは依然として生育盛んである。

しかし、今年は忙しくて、畑の仕事時間が、1/5程度になっているので、手入れがうまくいっていないのが残念である。



シマナ=カラシナ

2009年11月15日

粘土団子から出てきたものだが、そうしなくても、種こぼれから結構でてくる。

強い野菜だ。

しょうが

2009年1月16日

結構な収穫だった。

最後のものをとろうとしたら、茎の上に、花が咲きかけていた。右上に写っている。

ちょうど、恵美子がスーパーでしょうがを買ってきた。

一切れ150円だった。

我が家の収穫は、3000~4000円分ある。ほぼ一年分だ。

少しを次の植えつけ用にとっておく。



だいこん

2008年12月9日

葉だいこんを、粘土団子から収穫

自然農法の実験進行中

現在、畑に置いた粘土団子は、131個。

全体では20種類以上の種を入れたから、いろんなものが発芽してくる。それでも、一つの団子からは、まずは1~2種類しか顔を出していない。

こんな様子の観察も楽しい。

2009年5月4日

畑で開いた大根の花を、花瓶にさしてみた。



2010年1月6日

粘土団子からなので、畑のあちこちに出てくる。すぐそばにはシマナ。

こんなふうは無秩序？なのが面白い。

不耕起だが、思った以上の出来栄え。

2010年2月25日

二つ頭髪のある大根。

昨日収穫したもの。

自然農法なので、いろんなものが出てくる

二本足大根はよく見るが、こういうのは初めて



島ニンジン (チデアクニー)



2009年4月1日

大根とチデアクニーのツーショット。

我が家の硬いクチャ、ジャーガルで、しかも素人では、根物は無理だろうと勝手に決め込んで、栽培はしていなかった。しかし、自然農法の本を読むと、根物が畑を「耕してくれる」というので、粘土団子に、大根、島人参(チデアクニー)、ごぼうの種を混ぜてみた。

これらのものとしては、適期より少々季節遅れではあったが。結果としては、素人栽培、はじめての栽培にしては、なんとか収穫があった。大根などは、けっこう美味しい。ごぼうもすくすく葉を広げている。次回からは、もう少し早めに種まきをしてみようと思う。

2009年7月14日

チヂクニーの花。

昨年種まきが遅かったので、根が大きくなならないまま開花してしまった。

今年は反省して、種まきをこの時期に開始した。

それにしても野菜の花は結構美しい



ツルムラサキ

2008年8月22日

毎年、種こぼれから育ってくる。庭のあちこちからたくさん発芽してくる。うんざりするほどでてくるといってもいい。

これからが全盛期。12月ころまで楽しめる。

ネットかひもを張って、そこにからみつかせる。写真のものは、うまくいかなかったゴーヤの棚を利用している。

繁殖力旺盛だが、無駄な細い分枝をカットしたほうが、大きな葉がえられる。

収穫は下から葉をもぎ取っていく。汁にに入れるか、おひたしにしている。

トマト

2008年12月24日

今年の初収穫

早速食べる。

樹上完熟で、甘く美味しかった。



2009年3月22日

トマト地這えの実験

野菜づくりの「教科書」を見ると、トマトは支柱をたててネットをつけて、上に伸ばすなどと書かれている。しかし、私は実験好きだ。地面をわせたらどうなるか、という実験だ。いまのところ成功。いくつもなっている。

問題は、他の作物のうえを這っていつてしまうことだ。

2009年1月28日

収穫。シマラッキョウ、トマト、パセリ、イタリアンパセリ、ルッコラなどなど

ラッキョーは、夏に植えたもの。昨年までは3月ころから収穫しはじめていたが、花野果村にはもうラッキョーを出している農家があったので、私も試してみた。結構いける。これら6月まで順々に収穫して楽しんでいけそうだ。

このラッキョーの苗は、昨年、我が家でできたものだ。

トマト、パセリは、10月11日に購入した苗を植えた。

イタリアンパセリは、去年のものが引き続いている。「多年草」化してしまった。

ルッコラは、10月の種まきのもの。繁盛しすぎて、近隣の方々におすそ分けした。

10月終わりからはじめた粘土団子からもいろんな種類の野菜の収穫がはじまっている。

今日からとても暖かくなった。温度も野菜も春を歓迎しているようだ。



2010年1月13日

樹上完熟トマト、鳥に食べられる

今日収穫しようとしていたら、見事、先を越された。

多分、我が家の先住者のイソヒヨドリだろう

なす

2009年5月6日

花だけですみません。

野菜の花は、結構美しい。

花屋さんで売っているものではないが、それだけに「いいもの」だと思うが。

なにせ、花のまま摘み取られて、飾られておしまいというわけではない。

結実させるために大切にされるのだ。



ニガナ=ンジャナ

2007年9月24日

その名の通り苦いが、豆腐とあえるなどして、沖縄料理では定番である。

近所の岩の隙間に繁殖しているのを見て、私も苗を畑の岩の隙間に植えてみたら、見事に成長している。岩も結構、植物が育つ。むしろ岩を好むものが多い。その代表がこのニガナ、そしてハーブでいうと、タイムである。他には、ソテツやセイロンベンケイなどもよく育つ。



2007年12月7日



ニラ

2008年10月15日

四年前の引っ越しの時、愛知県の家から持ってきた苗が、今年は、私にしてみれば大収穫。

何軒かに配る。いつももらいっぱなしなので、「たまには」という気分

2009年11月16日

手を加える必要はないに等しい。
3~4年一回移植さえすればよい。



にんにく

2008年6月2日

はんだま

2008年2月16日



2009年3月27日

ハンダマ、ニラなどのような多年草も、何年かたつと地力が弱ってくるので、移植する。

まだやっていないが、アスパラガスなどもそうだろうし、バナナもそうだ。

私はだいたい3~4年周期でやろうと考えている。

写真は、ハンダマを移植したもの。

モロヘイヤ

2008年9月3日

種こぼれで、7月後半に出てきた。そして、8月末から食用になる。

毎年、この循環でやっていけるが、今年は発芽が少なかったなので、購入した苗を一本植えた。

合計3本で、今年は食用にすることになる。

9～10月からはいやになるほど繁茂するのが昨年までの経験だ。



2009年10月14日

昨年の苗についた種を粘土団子にいった

こぼれ種からも育つ

暑く小雨の今年も育つ

三つ葉

2009年3月21日

我が畑の作物には、苗や種をまいたりする他に、多年草とこぼれ種によるものがある。

この三つ葉は、4年ぐらい前に一回植えたものが、こぼれ種で育っている。繁殖著しいので、香り物以上の使い方になってしまう。

日陰でありさえすれば、すくすくと育つ。肥料分は気にしなくてもよい。

この他に、こぼれ種で育つものとして、パパイヤ、シマナ、モロヘイヤ、四角豆（うりずん豆）などがある。こぼれ種は、耕さないところで育つことが多いようなので、不耕起栽培に適しているみたいだ。

作物によっては、「とう」がたって、花が咲いてしまい、食用にするには遅すぎてしまうこともあるが、それでも、種をこぼしてくれると思えば、それでいい。



2010年2月28日

世話は何もしていないのに、毎年、この時期どんどん増える。種がとぶので、畑のあちこちにだ。

香豊か。

みょうが

2008年8月16日

初収穫。春植えたもの

床下の日陰で湿気が多い場所に植えた。

地面から白い花のようなものがのぞいているのを見て、「これだ」と発見した。

この調子でいくと、毎週何個もたべられそうな気配だが、季節はこの時期が終わりのようだ。

早速、刻んで鰹節・しょうゆで食べた。なかなか好評である。



しまらつきょう

2008年4月5日

このところ、連日のように、ラッキョーを収穫し食べている。

今の時期は、やわらかくておいしい。5月ともなると太りだし、だんだん硬くなってくる。5月終わりとかなれば、次年度植えつけ用ということになる。

一粒が、一年近くたつと、このように10粒近くなる。育て方も、多少の草取りをする程度で、植えばなしに近くても立派に育つ。今年は少々植えすぎたかな、と思う。3月はじめから収穫をはじめたが、まだ100株ぐらい残っている。

なぜだか、客人においしいと喜ばれている。おみやげにすることもある。

2008年11月25日

しまらっきょうの花。見る機会は少ないだろう。



わさびな

2009年4月26日

ちょっと辛みがある

サラダにいけそう

今年に入って、はじめての挑戦。

粘土団子からの収穫だ。

野菜収穫三題

鳥が野菜を食べにこない

2008年4月5日

イソヒヨドリなどの鳴き声が盛んだ。ウグイスの鳴き方もとてもうまくなっている。オオコウモリもよく飛んでいる。イソヒヨドリの巣作りも始まっている。昨年、我が家の物干場での巣作りをめぐる「紛争」が再開しはじめたので、恵美子は、対策をたてた。繁殖の時期なのだ。

それにしても、今年の不思議の一つは、鳥たちが、畑の野菜を食べないことだ。昨年までは、トマト、レタス

など、たくさん食べられた。だから、野菜に網をかけて、防止対策までした。しかし、今年は網の出番がない。といっても、トマトは少々食べられたので、早めの収穫をこころがけた。しかし、このところ、樹上で熟しはじめるトマトも食べにこない。

原因はわからない。鳥たちの食糧難事情が改善されたからだろうか。とくに、昨年まで激しく食べていったタイワンシロガシラがほとんど食べにこない。見かける数も減っている。今年が寒く、雨が多かったせいなのだろうか。このあたりの原因がわかる人、教えてほしいな。

多種多様な野菜の収穫

2009年2月15日

このところの暖かい？ 暑い？ 天気と、昨日の雨もあって、野菜が急成長である。

粘土団子で蒔いた種も、2~3ヶ月になるので、収穫の時期でもある。

今日の収穫一覧表

苗からのもの トマト ミニトマト ピーマン
粘土団子からのもの さやえんどう ルッコラ チシャ
葉だいこん チンゲンサイ しまな などなど

暑さと雨のせいで、蚊が大発生は困りものだったが。



粘土団子からいろいろな野菜が

2009年11月28日

大根 ごぼう 人参 カラシナ わさび菜 ほか